



高取山の全縦記念碑

第18回テーマ： 六甲山縦走大会の 生いたちと歴史

講演内容

- ①縦走大会が生まれるまで
- ②縦走大会の移り変わり
- ③縦走大会に関わるボランティア

実施日：平成16年9月18日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



なかしま りょう
講師：中島 龍さん

プロフィール

1936年芦屋市在住
サラリーマン歴45年（公
務員41年、民間4年）
現在、六甲山縦走市民の
会会長、兵庫県山岳連盟会
長として活躍。

30年の積み重ね

台風が近づいては通り過ぎてと繰り返す、少し不安定な天候の中、18回目の市民セミナーを行いました。今回は神戸のスポーツ文化として有名な、六甲山縦走市民の会の「六甲山縦走大会」について、主宰者である中島さんにお話しいただきました。昭和50年より開催され、今年は大会30周年で大きな節目の年にあたります。蓄積した歴史背景や現在の運営の話をもつて、参加者は全縦への関心を大いに高めました。

神戸から全国に発信しているスポーツ文化

「六甲山縦走大会」は、六甲山系西の須磨浦公園から東の宝塚までの56キロを、1日で歩くハードな行事です。毎年11月に2回開催され、第29回までの参加者は約10万人で、ほぼ85%の人が完走しています。最近では約6割が神戸市外や全国各地からの参加者となっています。

大都市神戸の背山で、登山道からすぐに市街地に出られるという、類のない環境が活かされています。参加者だけでなく主催者やボランティアの力で大会を支えられています。神戸が全国に誇れる代表的なスポーツ文化であると確信しました。



歴史背景について耳を傾ける

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

完走は次の人生への起爆剤

中島さんは、完走認定証を最後の一人まで手渡すことを喜びにされています。「完走者は皆、不思議と心優しい人になります。気力体力を確かめ、奮い立つ自信をうかがえます。」と中島さんは確信を持って締めくくられました。

縦走大会は自分を鍛える大きなきっかけとして前向きな生き方に勇気づけていることを知り、まさに全縦は生涯学習なのだ実感しました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

会員の尾崎さんにレポートをしていただきました。

参加の感想 渡辺 洋さん

以前から六甲山縦走大会に興味がありましたが、なかなか完走に自信がなく参加出来なかったのです。

縦走大会が生まれてからの歴史や、縦走大会のボランティアの皆様の苦労話を興味深く聞かせていただきました。これからの課題として、山でのマナーをどうすればよいのかについて考えさせられる話でした。

完走された方の気力、体力が次の活動への出発点となることでした。中島先生から、予行演習として、全縦走行程を分けて歩いてみたらどうかとのアドバイスをいただきました。次回はぜひとも参加したいと考えております。



【助成金をいただいている機関】

生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲全山縦走大会の生いたちと歴史



第18回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ	13:00~13:15
講演	13:15~14:15
質疑応答	14:15~14:55
休憩	14:55~15:15
懇親会	15:15~16:00

講演内容

- ①縦走大会が生まれるまで
- ②縦走大会の移り変わり
- ③縦走大会に関わるボランティア



菊水山から鍋蓋山へ

はじめに(中島 龍さん)



温厚な中島さん

全縦市民の会のお世話をさせていただいております。六甲全山縦走の話ですが、全縦をされた方はいらっしゃいますか？(2名の手が挙がった)
今年も11月14日と23日の日程で行います。今日はそもそも全縦とは何なのかをお話したいと思います。

講演内容

居留地外国人のハイキング文化が発端

明治以降、六甲山の開祖であるグルーム氏など、神戸居留地外国人達によって、山を歩くというハイキングの文化が神戸に入り、毎日登山へとつながった。毎日登山の発祥は善助茶屋である。その後、数多くの登山団体が生まれ、六甲山系を自由自在に踏破していった。谷や尾根、いろいろなルートをつくりそれらをつないで、須磨から宝塚まで歩こうとなった。

六甲全山は主な山で数えると、14ぐらいある。高低差を足すと全部で約3000m、距離は起点の須磨から宝塚の終点までで56kmある。

最初の縦走は大正14年

文献によると、最初の縦走は、神戸徒歩会の会長であった直木重一郎氏他2名が、大正14年11月に須磨浦公園の敦盛塚から宝塚まで行った。翌年の大正15年に「第1回六甲山脈大縦走」として、宝塚から須磨への逆縦走で開催した。

その後、昭和41年からヒヨコ登山会が大会を開催。神戸市よりも9年も早く開催しており、縦走大会については大先輩にあたる。現在もヒヨコ

登山会にボランティアをしてもらっている。このようにそれぞれの山岳団体が独自に六甲山系を利用して大会を開いていた。

余暇の活用から縦走大会の開催へ

昭和40年代後半、世の中が落ち着き、日本が豊かになった。神戸市では市民の余暇を考える、余暇開発課を設置した。登山、ハイキングの需要と、六甲山の活用が浮かび上がった。状況は違うが課題は現在と似ており、時代は繰り返している。そして、六甲山系を縦走してみたいが一人では不安という市民を対象に、全縦大会を開こうと話が進んだ。個人にチャンスを与える大きなきっかけとなった。

最初は神戸市が主催者で、昭和50年の勤労感謝の日に「第1回六甲全山縦走大会」を開催した。56kmという長距離を大勢が1日で歩くということで、安全面からの検討を重ねた。その結果、参加対象を神戸市在住または在勤者に限った。

第3回から全縦市民の会が発足し、神戸市と共催になり、大勢の参加者が集まり賑わった。

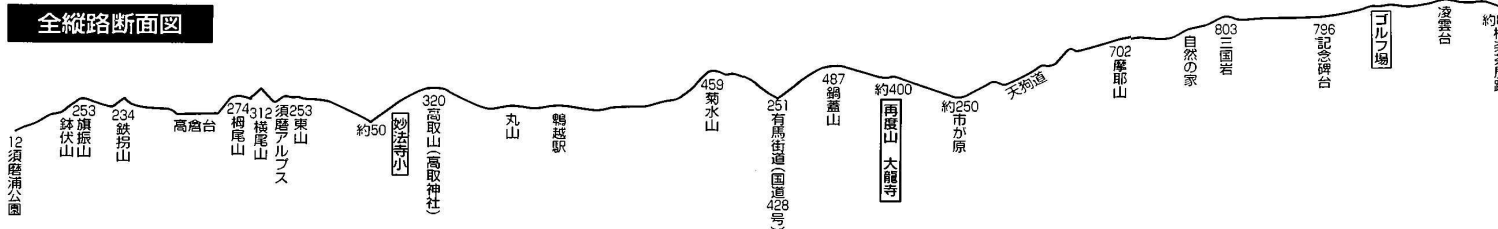


須磨アルプス

約6割が神戸市外の参加者

第9回から参加者が減少したため、第12回以降、神戸市外の参加者も受け入れている。六甲山への憧れか、北海道から沖縄まで全国から集まり、約6割が神戸市外の参加者である。また当初の主旨では初めての参加者を優先にしていたが、回数制限もなくなった。

全縦路断面図



自己責任～自分の力で歩く～

全縦大会には、ボランティアはなくてはならない存在である。朝から晩まで参加者のために協力する。チェックポイント係や誘導班他、毎回150名のボランティアが集まる。住民の方も温かく見守っているという点でボランティアといえる。

摩耶山を守る会のホットレモンサービスも第1回から続いており、他には森林整備事務所、兵庫県山岳連盟、ヒヨコ登山会、毎日登山が協力している。参加者に呼びかけ「緑の募金」も行い、縦走路の整備や道標の新設に役立てている。アンケートには、ボランティアへの感謝の言葉も多い。

第28回で、全縦市民の会がこれまでやってきた安全を重要視する手取り足とりの対応に、参加者の甘えが出てきたと反省した。自己責任で自分の力で歩く力が失われてきたと考え、大会のあり方を見直した。

第29回からチェックポイントの数を減らし、装備の確認も自分の力で歩くのだから自分で管理すべきと、責任を持ってもらうようにしている。

自分を鍛える大きなきっかけ

終点では、完走認定証と記念盾が手渡しされる。完走者は1日の辛さも忘れ、達成感を味わう。縦走大会で自分の気力、体力を試して完走したら、次の人生へと奮い立つ自信が生じ、前向きな生き方につながるようだ。



軌越の道標

参加者だけでなくボランティアも喜び楽しんで協力している。いろいろな力があってこそ大会は成り立つ。とても感謝している。今後も末永く続け、神戸の誇るべきスポーツ文化を次世代に伝えていきたいと中島さんは語った。

参加の感想 大谷 安規永さん

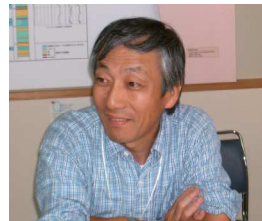
富士山を見ながら高学年の方々に導かれて、大宮国民学校へ通いましたが、戦争が激しくなり、山梨に疎開をしました。あの雄大な美しい富士は、頭の中にだけあります。



現在、六甲山の麓に居住できて嬉しく思いながらも登ることは殆どなく、この度は喜んで上山しました。空気はおいしいですし、心身共に清まり、特に緑は目が癒され安らぎます。あまりにも近すぎて、素晴らしいお山を忘れていたと思わせていただきました。山を愛し大切に皆さんと共に護らせていただきたく考えています。

参加者の声～アンケートより～

- ・六甲全山縦走大会に来年は参加したい。
- ・ボランティアの皆さんに感謝したい。
- ・神戸の街のイベントが全国展開してうれしい。
- ・市民の大きな財産を後世へ伝えたい。



岡 敏明さん



津田 寛さん

事務局より

穏やかな中島さんと活発なやりとりが出来て、楽しい1日でした。次回挑戦したいとの声もあがり、盛り上がりました。

六甲全山縦走

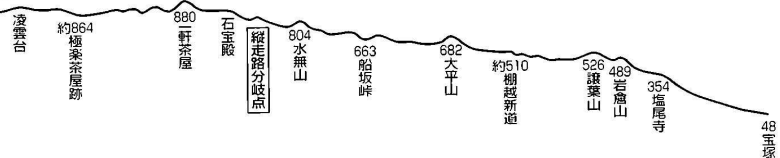
六甲全縦は
わがロマンティック街道
根性の血が滾り
友情の花が咲く
ここ 天と地の狭間に
全山は 火と燃える

昨日から今日へ そして
希望の明日へと繋がる
この真摯な切点の只今
切なる想い 哀歓を凝縮して
わが市民は
高らかに歌い上げる

まこと 六甲は
われら市民の
生活の糧 生活の詩

六甲全縦市民の会
初代会長 大西雄一

全縦の詩



◆参考・配布資料など：

1. 座談会「25周年を迎えた六甲全山縦走大会」
2. 六甲全縦とともに27年
(1.2とも『月刊神戸ゲー』より一部抜粋)
3. 『市民グラフこうべ』特集「六甲全山縦走」(回覧)
4. 六甲全山縦走マップ、縦走関係冊子の頒布

六甲全山縦走大会の問い合わせ先

神戸市生活文化観光局生活文化部文化交流課内
「六甲全山縦走大会係」

TEL：078-322-5166

☆参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者：21名(順不同・敬称略)

中島 龍	八木 浄	小坂 忠之	村上 定広
澤田 中	石田 澄子	青木 孝子	尾崎 尚子
渡辺 洋	岡 敏明	前田 康男	森本 隆夫
澤田 俊哉	大谷安規永	津田 實	北山健一郎
山田 裕之	堂馬 英二	松井 光利	藤井宏一郎
菖蒲 美枝			